

紙谷さんのおいしい新米の発送準備が整っています！



村一軒の養蚕農家紙谷正さんのおいしい新米の出荷準備が整いました。事務局ではご注文承ります。

●5キロ 3000円 (送料込)

●10キロ 5100円 (送料込)

玄米の価格も同じです。その他の数量の発送も可能です。

紙谷さんのお米のおいしさが数字になっています！

●食味値 88ポイント極上

(米の食味評価値 数値が高いほどおいしい)

●アミロース値 17.6%低い (数値が低いほど粘りがある)

今月のインスピレーションワード

『自然』こそが私たちの道徳の『いれもの』

自然が持つ尊厳を破壊すれば、人間の良心や思いやり、愛情までもが破壊され、失われることになる」

(哲学者 内山節さん)

さとやま語録

農作業時、日常にこぼれたネイティブ大鹿人のツバヤキをかき集めてご紹介します。

「ここは、いいところだな。」

濱中 愛之助さん

愛之助さんの御自宅の玄関から出てすぐ東を望むと赤石岳がどどんと望める。彼はすっかり白くなった頂を仰ぎ見て、ひとことこういった。



鍋物がほっと温まる季節ですね。村内どここの畑を覗いても充実の白菜ぶりがうかがえます。当企画では丸ごと一個どどんとお送りしております。これから寒さが増すごとに甘さを増してゆく白菜の味わいの変化もお楽しみください。漬物、サラダ、鍋物にたっぷりお使いください。♥

ひと霜、ひと霜ごとに冬の気配が強まってきました。季節の進み具合をうかがうときは必ず鼻先を少し持ち上げて小刻みに吸い込みます。そうすると風の奥に感じる微妙な匂いが分かります。今感じる匂いのニュアンスは氷の匂いと枯れ葉。不思議なことに自分のいる位置から遠いところのモノの匂いが伝わりやすいのがこの鼻の使い方です。山に入ったときにも必ず他の野生動物との位置関係を把握するために行います。先日山で出会った熊もやってみました。山のスタンダードな鼻の使い方、都会でも十分楽しめると思いますお試しください。

いつでも送っていいよ大作戦

in 大鹿通信

2014年11月

事務局

第31号

●「大鹿村の風景×コトバコレクション」から1枚ずつ 撮影時のピソードをご紹介します。

事務局では、ハガキを手にとられた方、其々が「コトバの風景」を想像したほうが楽しめるのでは、という観点から説明文を省きました。個人のイメージを大切にしたい方はご注意ください。



2009年10月撮影。脱穀の作業の合間に藁のソファでござげんにお話を聞かせてくれたのは紙谷正さん。紙谷さんは大正15年生まれ。戦争も体験しているし、大雨により大きな被害がでた36災害、高度経済成長期も経験している。「昔ながらの農家」という言葉が果たして正しいか分からないが村で最後の養蚕農家。今や大鹿村の農家の変遷をたどるときには欠かせない存在。「どんな出来事が印象深いですか？」という問いかけに「人生は思ったより、短い」と答えてくれた。「出来事」ではなく、人生そのものの「質」について答えてくれた。その真意とはいかに！一瞬、一瞬が過ぎ去って「出来事」になる。その「出来事」は大切な宝物のように扱おう。宝物がいっぱいになるように「今」の質を高めよう！直面している出来事に目を背けず最善を尽くそう！そう聞こえた。